中国語の音声的授業の試み

岩　崎　　皇

0. はじめに

読むことと比べて聞き取りは難しく感じる。中国語が漢字で表記されるという事情が関係していることは間違いないが[1]、より普遍的には、文字と音声という媒体の違いからくるものと考えられる。両者の決定的な違いは時間性である。つまり、文字はいつまでも待ってくれるが、音声は瞬く間に消えてしまうということである。

瞬時に消えてしまう音声を処理するにはそれを一時的にでも保持することが必要であり、これが音声を媒体とするコミュニケーションにおいては必須の技能となる。

本稿では、この技能の習得を目指す筆者の授業を紹介したいと思う。

1. 授業の概要

岩崎 2013 に述べた一つのアイデアとは、教材文の提示を音声だけで行うというものであった。これは、音声練習の際に、書かれたものを音読する、或いは書かれたものを見ながら教師の声を聞いて音読するという通常のやり方とは大きく異なる。

また、これに合わせてテキストは、巻末の見本にある通り本文部分が空白になっている。ずいぶんと見た目は異なるが、この部分を除けば、語句の一覧、要点の説明、練習問題等があり、通常のテキストと大差はない[2]。

該当する部分の授業の流れは、以下のようになる。

①まず、語句欄を見ながら単語の発音練習をし、

②その後、教師の先導で何も見ずに一文ずつ復唱し、

③最後に、一文ずつ音声を聞き漢字で書き取る。

つまり、初めに単語の発音に慣れた後、その組合せである文を何も見ずに言わせるのである。もちろん、学習者の様子を見て速度を調節したり、フレーズに分けたりすることもあるが、最終的には一文を一気に言えるようにする。また、その際、単語の意味、訳等も適宜口頭で伝える。

学生は意味が分からなくても 3, 4 音節程度は復唱ができる。初級段階のテキストでは一文は平均 8 音節程度であるから [3]、あらかじめ単語を練習することによって何とかこなせる。

③は確認のために書き取るのだが、学生は語句欄からピンインを頼りに該当する単語を見つけ漢字で書き取る。この時教師は文を原則一度しか言わず、作業中にもし忘れそうなら、適宜頭の中で繰り返すよう注意を与える。

2. 漢字で書き取らせることについて

音はそれを聞いて何も感じないなら、漠然と音がするというだけで、それを受け止めたとは言い難い。外国語学習の場合通常その意味をつきとめることを目的としがちだが、これが実際上、なかなかスムーズに行かないことは学習者すべてが経験することだと思う。何より､瞬時に消えてしまう音声にあっては、ゆっくりと思い出すなどという暇はなく、一つの単語の意味にこだわれば、他の全ての音を聞き逃してしまうという、音声によるコミュニケーションにとっては最悪の事態に立ち至る。つまり、聞いていないも同然ということになる。

まず音を認識するという過程が重要であり、その確認として、直接的には復唱をし、間接的には漢字を書くわけだが、音の正確な聞き取りを目指すなら、ピンインで書き取るということが考えられる [4]。

中国語学習において、学生が一番苦手だと感じるのがピンインである。恐らく、学生は英語の単語のように、つづりをそのまま覚える他ないと感じており、音素を綴っているとは意識していないのであろう。例えば、ピンインの上

にせっせと振り仮名を振る学生もいて、何のためのピンインなのか分からなくなっているのもそのせいであろう[5]。

ピンインを書くことの困難は、日本語の音韻体系からは区別できない音、紛らわしい音があるという理由が真っ先に考えられるのだが、よくよく考えてみれば、日本語をローマ字で書くのと同様の事情も存在している。つまり、ピンインが依って立つところの音素という単位は、もともと認識しづらいものではなかろうか[6]。

日常の感覚では音節が音の最少単位であって[7]、例えば子音はそれ単独で発音されることはなく、我々が頭の中で音節の先頭部分を抽出して初めて認識できるものである[8]。

結局、音節ごとにつづりをまるごと覚えていかなければならないという事情は確かに存在し、聞いたものをそのまま書き記すといったような単純なものではない。ピンインを正確に書き記すには、かなり長い期間それに触れ徐々に慣れていくしかなく、習ってすぐにとはいかないのが現状である。

ただ、テキストは課毎に区切られ、単語数はかぎられている。また実際上、例えば ji, ju, zhi のような音声的に紛らわしいものが同時に出ることはあまりないので、細かな点にこだわらなくても、学生は聞いた音声のピンインを予想し、見本にあるようなピンイン見出しの語彙表から単語を選び出すことは、ほぼできている。

ピンインで書かせようとすることは、いたずらに学生に失望感を与えることのように思われる。もし、書かせるとしてもせいぜい単語のピンインぐらいであろう。

正確な聞き取りに関しては、常に注意して聞くということだけで、聞き分けられなかったものが聞き分けられるようになるという上達の要素は少ないように思う。分かるものなら、注意を促されてよく聞いてみれば確かにそうだと感じるはずである。もちろん､分からないものは何度聞いても分からないのだが[9]。

したがって、この「よく聞く」つまり注意深く聞くことが重要であり、これは態度の問題と言った方がよい。この授業は言ってみれば、この態度を養うた

めに、学生を聞かなければならない状況に追い込んでいるのである。

3. 学生の反応

上記の授業は一昨年より 1 年生のクラスで試行を開始し、手直ししながら今期に至っているが、いきなりの復唱に学生が戸惑いを感じている様子はないように思う。

これは、教師として以前から感じていたことであるが、ピンインを読ませても正しい発音が出来るとは限らず、更に教師が先導しても、何も見ずに復唱させた方が、標準的で自然な発音が出来るのである。

また、音声だけでは分からなくとも、音にしたがって漢字を書いてみると意味が分かるということは、パズルを解くような面白さがあるのかもしれない。学生はかなり熱心に取り組んでいるように見受けられる。この点は中国語ならではのメリットではなかろうか。

4. 最後に

コミュニケーションはこちらがしゃべるばかりではなく、外国語では相手の発話を聞くことがむしろ主となるだろう。しゃべるにしても、相手のいうことが分からなければそもそも口を開くことが出来ない。

さらに、聞くことを通して単語、フレーズ、文等を覚え、覚えたものを使って話すというのが当然のことと筆者には思える。いずれにせよ、聞くことが最も基本だと言える。

また、筆者は社会人に中国語を教える機会もあるが、30 代ではもう自然な調子で発音することはすぐには出来ないと感じている。個人差はあるにせよ音声習得における年齢の影響は非常に大きいと思われる。或いは、20 代は、中国語の音声をきちんと身に付ける最後のチャンスかもしれない。

この授業は、中国語音声に慣れる、或いは聞く習慣を養うという、謂わば真似が出来るようになる訓練とでもいうべきものだと考えている。

（教科書見本）

第 5 課　君は何歳ですか？

【語句】

1) bàba	爸爸	お父さん	6) ne	呢	～は？
2) duōdà	多大	何歳	7) shēngrì	生日	誕生日
3) hào	号	日（にち）	8) suì	岁	歳（さい）
4) jīnnián	今年	今年	9) wàng le	忘了	忘れた
5) le	了	～になる	10) yuè	月	月（がつ）

líng	yī	èr	sān	sì	wǔ	liù	qī	bā	jiǔ	shí
○	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

【本文】

A：□□□□□□？　君は今年いくつになりますか。

B：□□□□□□。　私は今年 19 歳です。

A：□□□□□□□□？　あなたの誕生日は何月何日ですか。

B：□□□□□。　1 月 17 日です。

A：□□□□□□□？　君のお父さんの誕生日は？

B：□□？ □□？ □□□。　3 月？4 月？忘れました。

【要点】

1. 数の言い方

18 → **十八** shí bā　　24 → **二十四** èrshí sì　　59 → **五十九** wǔshí jiǔ

2. 日付の言い方

“～月 yuè～日 rì”が正式ですが、会話では“～月～号 hào”が普通です。

【練習】

1. 補充語句

māma	gēge	dìdi	jiějie	mèimei	
妈妈	哥哥	弟弟	姐姐	妹妹	
qiántiān	zuótiān	jīntiān	míngtiān	hòutiān	měi tiān
前天	昨天	今天	明天	后天	每天

2. 作文

(1)君の妹は何歳ですか。 .....

(2)昨日は何月何日でしたか。 .....

(3)私の母は今年 47 歳です。 .....

3. 復唱して書き取りなさい。

(1) .....　(2) .....

(3) .....　(4) .....

(5) .....　(6) .....

(7) .....　(8) .....

参考文献

岩崎皇 2012 「中国語の音声学習について」
『駒澤大学総合教育研究部外国語第 1・第 2 部門外国語論集』第 13 号,
2012 年 9 月
岩崎皇 2013 「中国語テキストに関する一つのアイデア」同『論集』第 15 号,
2013 年 9 月
胡玉華 2009 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』, 東方書店,
2009 年 3 月 20 日

注

1 書かれたものなら、我々日本人はすでに多量の中国語語彙を知っているということである。

2 本文は以下のような会話である。

A : 你今年多大了? B : 一月十七号。
B : 我今年十九岁。 A : 你爸爸的生日呢?
A : 你的生日几月几号? B : 三月? 四月? 我忘了。

なお、練習にも復唱と書き取りの問題があるが、こちらは以下のような文を用いる。(8) には未修の“要结婚”をわざと入れてある。

(1) 今天 X 月 X 号。 (2) 我妹妹今年 16 岁。 (3) 明天是我的生日。
(4) 后天是我哥哥的生日。 (5) 明天是几月几号? (6) 明天是 X 月 X 号。
(7) 我姐姐今年 25 岁。 (8) 她明年要结婚。

3 《汉语会话 301 句》の模範文 301 個の平均は、一文が 7.7 文字。

4 岩崎 2013 ではピンインで書くことが述べられていたが、それはメンバー数名の学習会でのことである。

5 聞けば、高校の英語学習で振り仮名を振るように指導されたということであり、学生の自発的行為ではないのかもしれない。

6　表音文字を使用する欧米人はどうか分からないが、所謂音節文字（仮名）を使用する我々日本人は正にそうだと思われる。例えば、ピンインの困難を軽減すべく、ピンインの一部（子音や母音）を記入するだけの教材も作成してみたが、教師が回答を示すまで書こうとしない学生が増え、結果は思わしくなかった。

7　中国語の音節を我々日本人が聞き取る場合、日本語の音節に合わせてより小さな部分に分けている。例えば、xiao をシアオのように。

8　仮に単独で発音される子音であっても、例えばmは「ムー」と伸ばすことができるが、その後に「マ」を加えて「ムーマ」と言ってみた時、「マ」の先頭部分と「ムー」が同一であるとは感じられない。

9　岩崎 2013（200 頁）の一覧表参照。